

第7回ワーク・ライフ・バランス講座 「認知症サポーター養成講座～あなたも認知症サポーターに！」開催報告

【開催日程】平成 28 年 9 月 27 日

【開催場所】高知大学 朝倉キャンパス 共通教育 210 番教室

【参加人数】156 人

講師 佐藤 政子氏

認知症の人と家族の会高知県支部世話人代表

田村 良子氏

高知市健康福祉部 保健所 健康増進課



【概要】

高知市の協力で認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症は誰でも起こりうる脳の病気です。65 歳以上では1割ほどが認知症を患っていると言われます。認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者です。認知症サポーターになると、地域で認知症の方に接するとき、認知症の方へ適切な対応をとることができるようになります。認知症サポーター制度は、厚生労働省が平成 16 年度に導入しました。受講者にはサポーターの証となる「オレンジリング」が渡されます。

今回の講座は、共通教育科目「男女共同参画社会を考える」の履修生が参加しました。

はじめに、男女共同参画支援ステーション長の小島優子准教授が、男女共同参画社会を実現する上で、介護は女性と男性の双方が携わっていく課題であることを説明しました。



講座では、認知症とは何か、認知症の方へどのように対応すればよいのか、サポーターとして何ができるかを学びました。「認知症の人と家族の会高知県支部」の世話人代表である佐藤政子氏に、認知症を患った実母の介護経験をもとに対応方法を講演してもらいました。



高知市健康福祉部の田村良子氏からは、認知症とはどのような状態であるのか、認知症の人にはどのように対応したらよいのかについて、お話がありました。



【参加者コメント】

- ・現在の介護の現状がよく分かった。認知症について、しっかり理解し、受け入れ介護をしなければならぬ。また、日々の暮らしを維持したり、少しでも違うなと思いついた面があると早期に受診することも大事であると分かった。高齢者と話したりするのが好きのため、自分の祖母であったり、近所のおばあちゃんであったり、気にかけていきたいと思った。何か、高齢者と触れ合える機会があれば、ぜひ参加してみたいと思った。
- ・いつ誰の身に起っても、正しい知識をもって事実を受け止め、皆で支えあえる家族・地域コミュニティを作っていくことが大切だと感じました。